

令和4年度モーダルシフトに関する調査委託事業

- ・2024年のトラックドライバーに対する時間外労働規制の上限適用への対応、温室効果ガス削減の必要性からフェリーやRORO船、鉄道などを活用したモーダルシフトの推進方策を検討する（委託事業者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)）。
- ・具体的には①遠方大産地から大消費地への青果物等の流通量を調査すると共に、②実輸送実験を行い、課題の洗い出しと流通合理化に資するモーダルシフトの可能性を探る。

調査1 遠方大産地から大消費地への青果物等の流通量調査

- ◎北海道・北東北・九州などの生産地から首都圏・近畿圏の大消費地までの主要品目・輸送モード・数量・輸送における課題ほかをアンケートにて調査。

調査依頼先

- ・産地（1道10県）：
北海道・青森県・岩手県・秋田県・
福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・
大分県・宮崎県・鹿児島県

調査項目 ※各エリア、出荷量の上位2-3品目を対象。

- ・年間出荷量
- ・出荷時期、ピーク時期、主な出荷先
- ・輸送モード（トラック・鉄道・海上）
- ・荷姿（パレット積み、バラ積み、その他）
- ・温度帯
- ・リードタイム
- ・輸送における課題、要望 など

調査2 モーダルシフトの実輸送実験

- ◎北海道・愛媛・佐賀におけるモーダルシフトの実証実験を行う。

北海道



- ・北見～函館の道内物流においてトラックから鉄道コンテナ輸送への切替えを玉ねぎで実施（570km）。
- ・リードタイムが2日延びることによる品質面（鉄道輸送による荷崩れ）を検証。

佐賀



- ・首都圏（大田市場）向け鉄道輸送。
- ・これまで振動による荷崩れの観点から鉄道輸送が難しいとされていたいちごを11型の防振パレットを活用することで成果を確認する。

愛媛



- ・みかん（伊予柑）における愛媛（三島川之江）～千葉へのRORO船輸送の実施。
- ・11型のパレット化に伴い8kg箱を用意し、効率面・品質面を検証する。



輸送モード切替による**品質面・コスト面・効率面**などの比較検証を行い、今後の可能性を模索する。